

平成27年度「放課後子ども教室」取組の概要

市町村名	学校名等
檀原市	檀原市立畝傍北小学校

① 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

ひまわり学級は、1974年にスタートした。当時は、厳しい部落差別の結果、学校にもなかなか通えず、学習の保障も十分されない子どもたちの実状があったのだが、地域の運動体や親や教職員の運動によって「同和教育補充学級」ができた。そこでは、差別をしっかりと見抜き、差別を許さず、はね返していける部落解放の力をつけられるような学習を続けてきた。そして、太陽に向かって大きな花を咲かせる「ひまわり」のように、差別や戦争がない、ひとりひとりの命が生き生きと輝く世の中を作っていくという願いを込めて“ひまわり学級”という名前に替わった。現在では「差別をなくす学習は、差別される立場の者だけが学ぶのではない」という考えに立ち、希望すれば誰でも学べるひまわり学級として今日に至っている。

② 特徴的な取組の概要

低学年では、なかまづくりを中心に、地域の公園や特徴的な施設のまち探検を行い、中学年では、3年生は公共施設に目を向け、ひまわり学級生以外の子にポイントラリー一制で紹介している。4年生では、大久保町にある生国魂（いくたま）神社で見つけた石碑に書かれてある内容に着目し、辞書を片手に調べていくうちに、洞（ほら）の池について書かれてあることがわかった。洞の池って何だろうと、おおくぼまちづくり館で話を聞き、畝傍山にあった洞村が大久保町に移転したということがわかった。畝傍山へ実際に行行って洞村の跡や洞池を見学し、生活の跡があったことを確認できた。高学年では、地場産業に目を向け、昔、大久保では靴作りが盛んであったことを知り、5年生は皮革産業から太鼓の学習を進め、食肉学習を通して、命の尊さを再確認した。6年生では、歴史学習と共に平和学習の中で、人権侵害の歴史を学び、差別について深く考える学習を進めている。



4年 辞書で碑文の解読に挑戦中



5年 アニマル新聞づくり